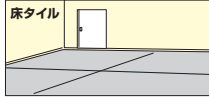
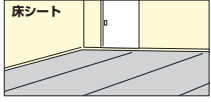


ボロンの施工方法とメンテナンス

施工について

1. 下地の点検 ① 平滑さ ② 乾燥 ③ 強度 ④ 汚れ を点検します。



2. 割り付け・墨出し

● 施工現場を実測し、割り付け図をもとにして、割り付け、墨出しをします。

3. 材料保管

● 材料保管の善し悪しによって仕上がりが左右されます。**ビニル系床材は温度による影響を受けやすいので、特に冬季の保管管理は重要です。**

- ① 乾燥した平坦な室内に保管し、直射日光は避けてください。
- ② 室内温度10～25℃、湿度75%以下での保管が最適です。
- ③ 端部の発泡は、はささないでください。
- ④ 床シートの耳の部分がつぶれたり、変形しないように注意してください。



4. 材料確認

● 品番・ロット番号を確認し、同一場所に他のロットのものが混在しないようにしてください。

5. 養生 (長尺)

- ロールが同一方向にあることを確認します。
- 5～10cmの余分を計算に入れて、長尺シートを粗切りします。
- この状態で、10℃以上に保たれた室内に長尺シートを少なくとも24時間仮敷きして、室内温度になじませ、巻きグセ、伸縮などを取り除いてください。



表面

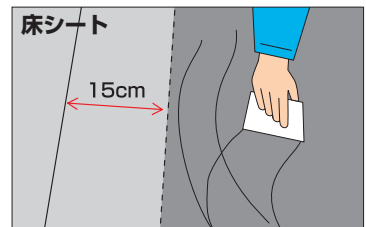
⚠ ビニル系床材は温度による影響を受けやすいので、特に冬季の養生管理は重要です。養生を十分に行わずに施工しますと、施工後温度差による材料の伸びによって突き上げなどを起こします。

5. 養生 (500角)

● 10℃以上に保たれた室内の平滑な場所で**タイルを箱から取り出して**、表面を上にして1～2日程度積み重ね、クセを取り除いてください。特に冬季はクセが取れにくいので、必ず箱から出してください。

6. 接着剤塗布

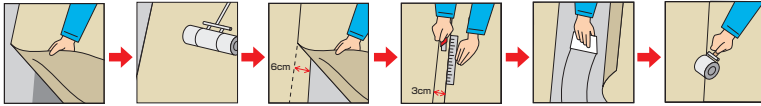
- 長尺シート・500角タイルは墨から15cmずつの幅を残して接着剤を塗布します。長尺シートを重ね切りした後、その部分に接着剤を塗布し圧着します。
- 接着剤はアドヴァンの専用接着剤を推奨します。
- 使用前に接着剤の容器に記載されている事項をご参照ください。
- 木下地など通気性の少ない下地は接着剤の溶剤が抜けにくいので、残留溶剤による塩ビタイルの伸びを引き起こし、施工後の突き上げを発生させることがあります。その場合は、接着剤の塗布量を標準より少なめにし、オープンタイムを長めにしてください。
- アドヴァン専用接着剤以外の接着剤をご使用の際のクレーム等はお受けできません。
- クッションフロアーなどの既存床の上に重ねて施工しないでください。
- 施工は専門業者に依頼ください。



	一般工法	耐水工法
	 アクリルアドボン (AB-300A) アクリル樹脂系 エマルジョン形 15kg/缶 ¥7,700/缶	 ウレタンアドボン (AB-500U) ウレタン樹脂系 溶解形 (1液性) 15kg ¥8,300/缶
ボロンシート	○	○
ボロンタイル	○	○

⚠ モルタル、木質下地へは一般工法もしくは耐水工法にて施工してください。

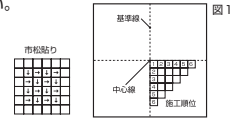
7. 貼り付け・圧着（長尺）



- ①墨に沿って貼り始め、空気を押し出しながら貼り付けます。
- ②45kg以上のローラーなどで中央から継ぎ目に向かって残った空気を押し出すように圧着します。
- ③継ぎ目は6cm重ねます。
注）ロス分は材料代に含まれておりません。※ボロン・ロールの柄はつながらないことがあります。
- ④端から3cmのところに定規をあて、重ね切りします。
- ⑤重ね切りした部分の床シートを持ち上げ、下地に接着剤を塗布し、オープンタイムをとってから貼り付けます。
- ⑥ハンドローラー等で入念に圧着してください。
△ 圧着不足は接着不良につながり、後日突き上げ、剥離などを引き起こす原因になります。

7. 貼り付け・目違い修正・圧着（500角）

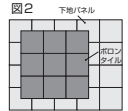
- 施工する部屋の中心を基準にして、直角に交わるタテ、ヨコの基準線を墨出しし、部屋を4区分します。出入り口、廊下、壁面などには極端に小さなカットが入らないように、中心点を調整して割り付けてください。
- 基準線に沿って基準タイルを施工します。
- 施工はピラミッド工法（図1）のようにすずめてください。
- 市松貼りを標準としてください。



- 目違い修正は、圧着する前に全て完了させてください。
- 接着可能時間内に75kg以上のローラーなどでよく圧着します。
- 接着剤が硬化するまでは、冷暖房による急激な温度変化や直射日光は避けてください。
- 壁際などの端部は、隙、浮きのないように納まりよくカットし、ハンドローラー等で入念に圧着してください。圧着不足は接着不良につながり、後日突き上げ、剥離などを引き起こす原因になります。

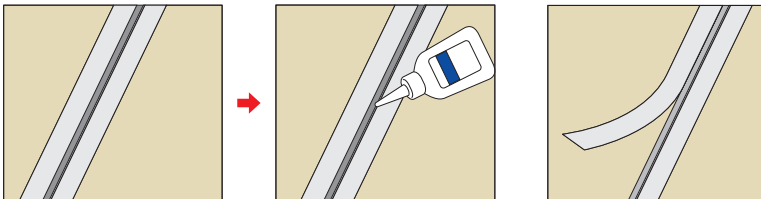
二重床（OA下地）に施工する場合の注意

- 下地パネルの段差は1mm以内、隙間は2mm以内になるよう、レベル調整を正確に行ってください。
- 15℃以上の室温になじませてから施工してください。タイルと室温に温度差があると施工後突き上げ、目地隙を引き起こす原因になります。
- タイルのつめすぎは、施工後突き上げの原因になります。
- 図2のように下地パネルの目地をまたぐように、1/2ずらして割り付けしてください。これは、下地の不陸が表面に現れにくすると同時に水などをこぼした場合に、直接パネル下に落ちるのを防ぐためです。



8. シーム処理（長尺）

- 床シートの継ぎ目をシーム処理してください。



- ①マスキングテープのジョイント部分を2mm程度あげて、貼ります。
- ②ジョイント部分にシーム剤を塗布します。
- ③塗布後、マスキングテープをシーム剤が乾燥する前にはがします。

推奨シーム材：ヤヨイ化学工業（株）「シーム液タイプC」

⚠ 施工後のワックスがけは不要です。

メンテナンス

広い面積の場合

- ①掃除機などでホコリや塵を除去します。
- ②エクストラクター（濯ぎ洗い機）、もしくはスクラバー（自動床洗浄機）で清掃します。いずれも業務用清掃機です。
 - ・エクストラクターは温水にて清掃してください。
 - ・スクラバーは柔らかいブラシを低圧にて使用してください。
 - ・必ずきれいな温水を使用してください。
 - ・清掃機器は床の縦方向に流してください。
 - ・温水のみの清掃をお薦めします。どうしても洗剤を使用する場合は、中性洗剤を使ってください。
 - ・洗剤を使った場合必ずその後十分に水洗いして、洗剤成分が床に残らないようにしてください。洗剤成分が床に残ると、汚れが付きやすくなります。



狭い面積の場合

- ①掃除機などでホコリや塵を除去します。
- ②モップがけするか、テックブラシで軽くこする、もしくは小型のスクラバー（自動床洗浄機）で清掃します。
 - ・モップは必ず固く絞ってください。
 - ・必ずきれいな温水を使用してください。
 - ・温水のみの清掃をお薦めします。どうしても洗剤を使用する場合は、中性洗剤を使ってください。
 - ・洗剤を使った場合は、必ずその後にきれいな水でモップがけして、洗剤成分が床に残らないようにしてください。洗剤成分が床に残ると、汚れが付きやすくなります。

[床材を長持ちさせるために]



- 外部からの土や砂の持ち込みは、床材表面を傷つけて摩耗を早めるなどの原因になります。出入り口にはマット類などの設置が必要です。



- ハイヒールや家具など局部荷重を受けると、圧痕が残る可能性がありますので注意してください。



- 傘などからの雨水は、目地や継目から水分が浸透し、剥離の原因となります。出入り口にマット類、傘立て等を用意してください。雨水が持ち込まれた時は、直ちに除去するようにしてください。



- タイヤのゴムや椅子のキャスターのゴムなどによって、ビニル床材の表面が変色することがありますので、間に保護板を入れてください。

品質特性

寸法安定性

規格：EN 434（ヨーロッパ規格）
試験方法：試験体を80℃、6時間加熱し、翌日常温に放置。加熱前との寸法の差を測定する。
試験結果：ロール、タイル共に0.25%未満（基準は0.4%未満）

耐摩耗性

規格：EN 985（ヨーロッパ規格）
試験方法：繊維板の上に試験体を乗せ、その上

をナイロン製のキャスターが3つ装着している摩耗試験機を25,000回転させ、床材表面の変化を測定する。
試験結果：変化なし

耐荷重性

規格：EN 433（ヨーロッパ規格）
試験方法：500N/cm²の荷重を2.5時間乗せ、試験前と後の厚みの差を測定する。
試験結果：ロール、タイル共に0.2mm未満

耐衝撃音遮断性

規格：ISO 140-8
試験方法：コンクリートスラブの上に床材を施工した時（A）と施工しない時（B）の階下で測定した衝撃音レベルの差（△Lw）を求める。
試験結果：アルティサン、ボタニック △Lw = 13dB、ナウ、エスニック及びBKB（サイザル） △Lw = 15dB、グラフィック、及びエイト △Lw = 12dB

人体帯電圧

規格：ISO 1815（国際規格）
試験方法：試験体を施工した部屋に人間を歩行させ、その後の人体と地面との電圧を測定し、その差を測る。
試験結果：ロール、タイル共に2kV未満（基準は2kV未満）